



平野勝朗准教授遺影

## 平野勝朗准教授追悼号の発刊にあたって

平野勝朗先生は、平成24年11月3日、64歳という若さで急逝されました。先生の突然の訃報に私どもは大きな驚きとともに、深い悲しみに胸が潰れる思いでした。あまりにも早過ぎるご逝去は、今さらながら運命の無情さを感じざるをえません。時間は経過しても残された私どもは、今も大きな喪失感につつまれています。哀惜の情はますます深く、商学会を代表して心より哀悼の意を表します。

この度、先生の遺徳を偲び、多くの玉稿を得て追悼号を発刊することとなりました。謹んで本追悼号を先生に捧げます。

先生は、昭和23年に静岡県静岡市でお生まれになり、昭和47年3月に早稲田大学商学部を卒業後、同大学大学院商学研究科に進まれ、昭和54年3月に同大学院商学研究科博士課程後期を単位取得ののち、満期退学されました。その後、同年4月本学商学部専任講師として赴任され、昭和59年に同助教授に昇任、平成19年同准教授（学校教育法改正による職名変更）となられています。約34年の長きにわたり学部および大学の発展に尽力されました。この間、商学部教務主任、愛知学院大学産業研究所幹事、同流通科学研究所幹事などの要職を務められておられます。商学部の主要科目である会計学、管理会計論、簿記Ⅰ、簿記Ⅱ、演習等をご担当になり、相手を心から思いやる指導で多くの優れた学生を育ててられました。

先生のご専門の研究領域は、管理会計の分野です。また、会計システムの分野やネットワーク環境下でのコンピュータの会計教育への適用などに関しても優れた研究成果を残されています。私の非才のため、異なる専門領域である先生の研究業績を紹介することはできませんが、そのご功績は高く評価されています。詳細については、巻末の研究業績目録を参照いただくこととし、ここでは、先生を偲び、そのお人柄の一部にふれたいと存じます。

先生は、専門分野にとどまらず、歴史、文化、音楽、スポーツ等さまざまな分野に深く広範な知識、高い識見を持った方でした。博学多識でユーモアあふれるお話しに、私は、時間の経過を忘れ引き込まれることも度々でした。

また、先生は、学生、教職員をはじめ他人が困っているとそのままにはしておかず、ご自身がどんなに忙しい時でもいとわず我が事のように本当に親身になり対応される方でした。

私事で恐縮ですが、学部の運営など物事の判断に迷った時、よく先生にご相談申し上げておりました。先生は、私が悩んだ顔でご相談するとその困った様子を感じ取られ、気持ちを和らげる意味で時にジョークを交えながら、いつも真正面から応えていただきました。物事の本質を見極めること、筋を通すことの重要性など多くのことをお示しく下さいました。自分の考え方に迷いがある時、先生との会話を通して多くの迷いを取り払っていただきました。先生は、会議等でも堂々と正論を述べられ、その見識の高さ、ぶれることのない姿勢をいつも尊敬しておりました。

先生には、商学部が日進キャンパスから新しく名城公園キャンパスへ移転するにあたって色々な問題について相談にのっていただいております。先生とともに新キャンパスの開校を迎えることができなかったことは、かえすがえすも残念でなりません。

私どもは先生のご遺志をしっかりと受け継いで、一層の教育研究活動の向上と充実に邁進して参ります。先生には、どうか本学商学部の発展を見守ってくださいますようお願い申し上げます。

これまでのご尽力に感謝を申し上げますとともに、心よりご冥福を祈り申し上げ、追悼号発刊の辞と致します。

平成26年3月

愛知学院大学商学会  
会長 脇 田 弘 久